

# 大阪学院大学の外国語教育 ～共通科目「言語」～

大学の授業の中で、外国語の学習は非常に重要です。大阪学院大学は、学生の語学能力の向上をめざし、外国語教育の充実・改善を図るさまざまな取組みをしています。そして、新しい語学教育のあり方を提案していきたいと考えています。

これまで英語を学習してきた人が多いと思われませんが、英語に関心ある人は、さらにその力を伸ばせるように、また、得意でなかった人も、興味をもって楽しく学習できるような語学教育を実践します。

英語以外にもドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、特修外国語など、国際的に重要な語学の授業が用意されています。初めて学習する人に難しくないように、十分工夫された授業が行なわれます。ぜひ、新しい語学にもチャレンジしてみてください。

教務部長 黒田 泰司

## 英語

Hello !

英語の学習を続けよう！

英語を母語としている人たちは全世界で約3億人、なんらかの形で英語を使用したり、学習している人たちは10億人位いるのではないかとされています。英語は、単に話し手の数が多いだけでなく、「国際語」とも言われます。これは、お互いに言語が違う人同士でもコミュニケーションをとるのに英語を使うことを意味しています。英語を通じて、英語圏の人たちだけでなく、他の国々の人たちと友達になったりビジネスを行ったりする機会が増えています。

皆さんは、高校まで英語を学習してきました。得意だった人、苦手だった人いろいろいると思いますが、大学で、今まで学んできた知識・技術を捨てることは「もったいない」ことです。

本学では、I-Chat Lounge や語学研修など、学んだ英語をすぐに試してみる場所や機会も設けています。共通科目「言語（英語）」の「英語A・B・C・D」「実践英語A～D」では、楽しく学びながらかつ将来のキャリア・アップにつながるクラスをたくさん用意しています。

## ドイツ語

Guten Tag !

ドイツ語は、ヨーロッパで1番多くの人に使われている言語です。ドイツ、オーストリア、スイス、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク等の公用語です。

学問の世界やインターネットの世界でも2番目によく使われており、ドイツ語を通じて、ヨーロッパの精神、経済、文化等を知ることができます。

ドイツには多くの企業が拠点を置き、ドイツからはたくさんの観光客が世界各国を訪れます。英語に加えてドイツ語のスキルを習得すれば、キャリアアップのチャンスも広がります。

本学では、1年次には、日本人教員による入門の授業を開講し、2年次以降には、実用的なドイツ語を学べるように、簡単な文章を読むクラスやドイツ語技能検定試験の対策クラス等、バラエティ豊かな授業を用意しています。また、ネイティブスピーカー教員が担当する会話の授業もお勧めです。

ドイツ語を履修すると、ドイツの大学（トリア大学）への留学のチャンスも広がります。多くの皆さんがドイツ語を選択してくれることを期待します。

## フランス語

Bonjour!

フランス語はフランスをはじめ、カナダ、ベルギーなどで母語として、また、多くの国で公用語として使われており、世界36カ国に計約2億2000万人の使用者がいます。フランス語は多くの国際機関の公用語でもあり、たとえば、国連総会では約17%の演説がフランス語によるもので、オリンピックでも、フランス語による案内放送がいつも流れます。

ところで、日本語には多くのフランス語が入っています。レストラン、クロワッサン、ルージュ、アンコールなどと。英語にもフランス語を起源とする語が極めて多く、約50%に及びます。たとえば、change(フランス語(以下同) change)、fashion(fashion)、judge(juge)、uncle(uncle)等々。これは、イギリスでは、11世紀以降フランス語が貴族階級の言語となり、議会でも、裁判所でも、2-3世紀前まで用いられ続けたことのおかげでもあります。

さて、フランス語は必要最小限のことのみを表現し、わかりやすい言語です。たとえば、日本語では「帽子をかぶる」、「メガネをかける」、「スカーフを巻く」、「上着を着る」、「ベルトを締める」、「スラックスをはく」などと毎回異なった動詞を用いますが、フランス語ではこれらの動詞を「(本来身に着ける場所に)あるものをもってくる」というように同じものとして捉え、1つの動詞で表現します。フランス語は、わかりやすい、理解し易い言語なのです。

## 中国語

你好!

中国語は、世界で最も多くの人(13億人)が使用している言語です。1978年から始まった改革開放政策の施行以来、中国が大きく変わっています。近年において、中国経済の目覚ましい発展、中国の世界工場化、WTOの加盟、さらに2008年北京オリンピックの開催など、中国の更なる発展が予測されます。そのため、現在のポータレス社会においては、中国語の重要性がますます高まると考えられます。

本学の中国語教育は、このような需要に応えるべく、実践的かつ実用的な現代中国語力を養うことを目標とします(具体的には、中国語の全12単位を修得した時点で、中国語の新聞程度の資料を読めること、実用文書を書けること、日常交流程度の会話ができること)。この目標を達成するために、まずは「中国語入門Ⅰ」と「中国語入門Ⅱ」では、統一教科書を使用し、履修生の中国語の基礎力を習得するように努めます。また、履修生の中国語検定試験へのチャレンジ等を勧め、必要に応じてサポートします。

## 韓国語

안녕하십니까

韓国語は言うまでもなく、韓国で韓国人の母語として使われている言語をいいます。日本では他に「ハングル」という名称でも使われていますが、ハングルとは言語名ではなく、韓国語を表記する文字のことをいいます。韓国とは地理的にも近く、歴史的にも文化的にも経済的にも密接な関係にあります。近年は韓流ドラマや映画、歌などで韓国語はとても身近なものとなりました。年間数百万人もの人たちが日本と韓国を行き来し、生活の周辺で会う機会も多くなっています。互いに共通点が多いのですが、その共通点の中にある違いを知らなければ誤解を招きかねません。韓国語に限らず外国語を学ぶことは日本とは異なる世界への扉を開く鍵になります。さまざまな人々との出会いを通して国際的な視野を広げ、文化の同質性と異質性、歴史観の違いを知る事で普遍的な価値観、教養、日本を相対的に見る力を身につけましょう。

表 共通科目「言語」の科目一覧

	授 業 科 目 名			
言 語	* 英 語 A 実 践 英 語 A	* 英 語 B 実 践 英 語 B	* 英 語 C 実 践 英 語 C	* 英 語 D 実 践 英 語 D
	*ドイツ語入門Ⅰ ドイツ語応用 A	*ドイツ語入門Ⅱ ドイツ語応用 B	ドイツ語応用 C	ドイツ語応用 D
	*フランス語入門Ⅰ フランス語応用 A	*フランス語入門Ⅱ フランス語応用 B	フランス語応用 C	フランス語応用 D
	*中国語入門Ⅰ 中国語応用 A	*中国語入門Ⅱ 中国語応用 B	中国語応用 C	中国語応用 D
	*韓国語入門Ⅰ 韓国語応用 A	*韓国語入門Ⅱ 韓国語応用 B	韓国語応用 C	韓国語応用 D
	特修外国語 A	特修外国語 B		
	*日 本 語 Ⅰ	*日 本 語 Ⅱ		

注1) 1 外国語 4 単位必修 (\*は必修科目を示す)。ただし、外国語学部英語学科は英語以外の外国語 4 単位必修。

注2) 言語と文化のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。

注3) 言語と文化のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、A～Dを履修するには、原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。

注4) 特修外国語は2年次配当。

注5) 日本語Ⅰ、日本語Ⅱは外国人留学生および帰国子女対象。

### 共通科目「言語」の履修システムについて

皆さんは卒業するまでに、5つの言語から1つを選び(外国語学部英語学科は英語以外の語学)、\*印の科目を修得しなければなりません。しかし、それだけでは語学の力は十分にはつかないでしょう。そこで、各言語の応用A～Dを履修することを強く勧めます。

各言語の応用A～Dは、科目の内容がすぐにイメージできるように、履修中は別の名前になっています。そして、修得したら、成績表には「〇〇語応用A」、「〇〇語応用B」、「〇〇語応用C」というように、修得した順番に表記されます。つまり、卒業するまでに各言語の応用A～Dまで4つの科目を履修することができます。科目は毎年見直し、皆さんが興味を持つようなクラスを開講していく予定です。

皆さんが2019年度に履修できる各言語の応用A～Dの科目名を下表で紹介いたします(実践英語は別パンフレット「もっと英語」を参照)。興味がある方は是非チャレンジしてください。

なお、各言語の応用A～Dを履修するには、当該言語の入門Ⅰをすでに修得済みであるか、または同時に履修しなければなりませんので注意してください。

	前期	後期
ドイツ語	会話・初級Ⅱ、ドイツ語を楽しむ、検定対策	会話・初級、ドイツ語を読む
フランス語	現代フランス文化を読む	会話・初級
中国語	会話・初級、会話・中級、中国語を楽しむ	会話・初級、ビジネス中国語
韓国語	会話・中級、実践韓国語Ⅰ、ビジネス韓国語	会話・初級、実践韓国語Ⅱ

## 「教養特別講義」の“ワールドツアー”クラスについて

共通科目には、これまでに紹介した「言語」に属する科目以外にも外国の言語や文化を学ぶことのできる科目があります。それが、「教養特別講義」の“ワールドツアー”です。このクラスでは、英語および英語以外の言語や文化に対する関心を深めることを目的とし、複数の教員がアメリカ、ドイツ、フランス、中国、韓国を舞台としたリレー講義を行います。この“ワールドツアー”は、5カ国の言語や文化、そして観光情報などについて一度に学ぶことが出来る欲ばりなクラスなのです。外国に興味のある方は、是非受講をお勧めします！

科目名	開講学期	クラス	担当者	曜日・講時
教養特別講義	後期	201	・長澤 宣親 ・中田 辰也 ・小山 豊弘 ・神谷 善弘 ・巖 賢娥	火・4
		202	・長澤 宣親 ・中田 辰也 ・小山 豊弘 ・神谷 善弘 ・巖 賢娥	火・4

## 外国語学習のすすめ ～英語以外の外国語も～

### 1. 外国語学習で得られるもの

コミュニケーション能力、異文化理解（文化の相対的理解）、日本語のより明確な理解、脳の活性化

### 2. 言語では最初に学ぶ事項が最も重要で、頻繁に使用される

たとえば、英語では be 動詞、have, do, will など是最初（初期）に学ぶ事項ですが、実はこれらが最も重要で、頻繁に使用されます。「800語のできる英会話」といった本がよくありますが、これはこのことのひとつの表れです。つまり、外国語は入門で出てくることを確実にマスターすることが非常に大切なのです。英語においても一度これらの事項の用法を確認しておくことが重要と思われます。

### 3. 英語以外の外国語の学習目標は、ひとまず「～語検定3級」から

大学で初めて学ぶ外国語の場合、上で述べたように、「～語入門Ⅰ、Ⅱ」で相当なことが学習されるのですが、あとはそれを基にして、「会話」、「講読」といったさまざまな科目で、語彙、表現力、聞き取りなどを高めていくことになります。

大学3年ぐらいまでの一応の目標としては、「～語検定3級」合格を揚げるができるでしょう。3級のレベルには、「～語入門Ⅰ、Ⅱ」に加えて他の科目を履修したりして、それほど大きな困難なく達することができます。このレベルでは日常のちょっとしたコミュニケーションも可能となり、社会的にも認知されてきます。すなわち、英語に比べての稀少性もあり、業界によってはこのレベルでも注目に値するものとなっています：観光、ホテル等々。

### 4. 「～語検定1, 2級」も充分可能

3級のレベルまで達すると、1, 2級が視界に入ってきます。英語だけでなく他の外国語でも、本学に開設されているさまざまな科目の履修、短期海外語学研修、長期留学などと組み合わせれば、1, 2級合格も充分可能です。現に本学において、英語以外の外国語でも毎年何人かがこれらの級に合格しています。

### 5. 言語によるものの見方の違いが見えてくる

虹を例にとってみると、日本語では7色で構成されているとされていますが、他の言語では必ずしもそうではありません。たとえば英語では6色、ドイツ語では5色とされており、2色となっている言語も存在します。つまり、言語というのは世界のものを恣意的に（言語の都合で）表現しているものなのです。したがって、多くの外国語を学べば学ぶほど言語によるものの見方の違いがよく見えてくることになります。英語以外に少なくとも1つの外国語の学習をお勧めします。

### 6. 外国語の学習は日本語の明確な理解にもつながる

外国語を学ぶと日本語の構造の理解が深まることにもなります。たとえば、日本語ではもともと「大雨がわれわれの出発を妨げた」という言い方はしませんが、英語、フランス語などではしばしば用いられます。あるいは、日本語では擬音語、擬態語は頻繁に使用されますが、外国語では概してそうではありません。外国語を学んでいるとこういったことも分かってきて、日本語がより明確に理解されることにもつながります。また、もともと日本語では使用されていなかったような外国語の表現を取り入れたりして、日本語の表現も豊かになっていきます。

## 7. 外国語の学習は脳の活性化をもたらす

外国語を学習するということには、文法の規則、語彙、慣用句といったものを明確に理解し、記憶していく操作が伴います。このような操作はわれわれの脳皮質にある約140億個のニューロンを結びつけ（シナプスを形成し）、ニューロンネットワークを形成します。このように形成されたニューロンネットワークは大変堅固なもので、他の知的行動にも転用されると考えられています。

また、言語により脳の使用される場所が多少とも異なることが知られています。読解を例にとると、表音文字と象形文字は違った場所で理解されます。たとえば、英語、中国語、日本語は各々多少とも異なった場所を使って読み取られるのです。あるいは、複数言語使用者では、聞き取られた言語音の意味付けがされる場所は、各々の言語により微妙に違っていることが近年分かってきました。われわれはもともと数パーセントしか脳を使っていないと考えられていますが、外国語の学習はその稼働率を少しでも高めることになります。

結局、外国語の学習は、その言語をマスター出来なかったとしても、脳を活性化させ、われわれにとって最も重要な思考力を高める働きをもっています。